

国交労組

より多くのなかまを職場で迎えよう

2021年1月5日号
第205号

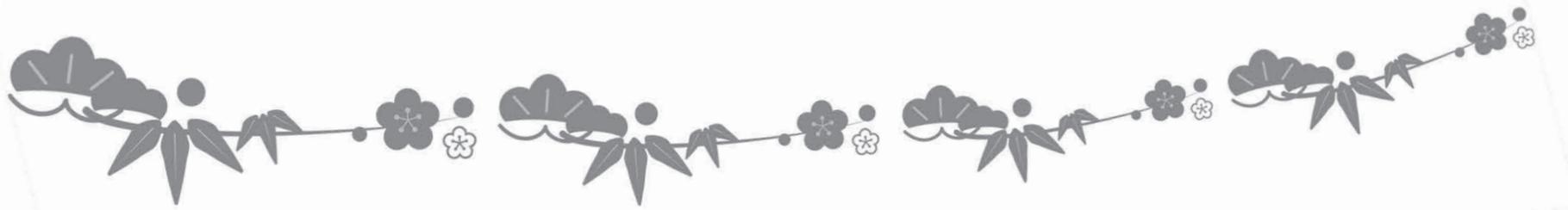
毎月2回5日・20日発行

発行所

東京都千代田区霞ヶ関2の1の3 国土交通労働組合
電話(03)3580-4244 F A X (03)3593-0359
URL: <http://kokkoroso.or.jp/>
発行者: 安藤 高弘
1部20円(組合員の購読料は組合費に含む)

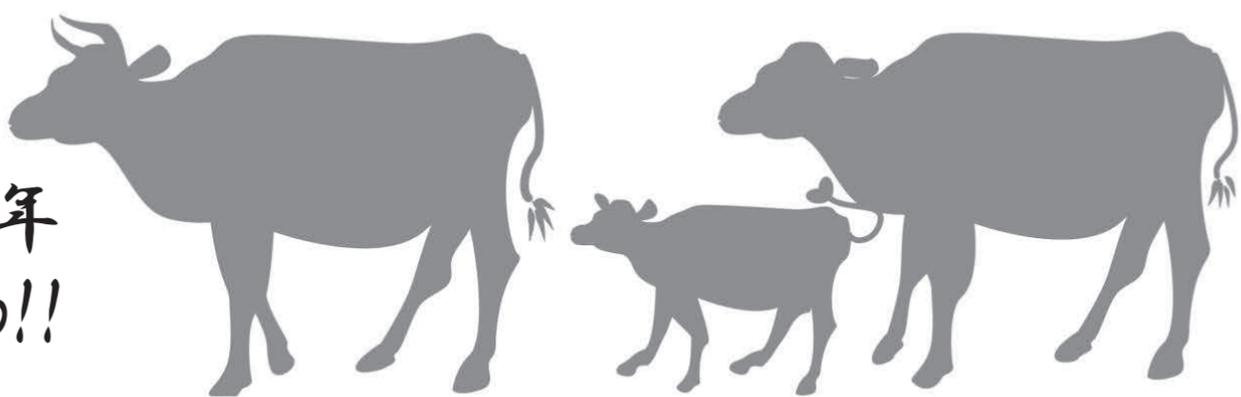


2021年1月5日 国交労組 第205号 (通巻1361号) 昭和37年12月3日 第三種郵便物認可



支えあい、助けあい、ともに進もう

2021年 謹賀新年
We are Kokkoroso!!



明けましておめでとうございます
今年もよろしく願っています

国土交通労働組合
中央執行委員会 一同

新年の「ぞ」挨拶

国土交通労働組合に結集する全国のなかまのみなさん、
新年あけましておめでとうございます。

昨年初頭から全世界を混乱に陥れている「コロナ禍」のもと、さまざま「自粛」が求められる、これまでの生活様式が大きく変わるなかで、なかまのみなさんが工夫をこらして活動を強め、労働条件改善、生活改善のたまたかに奮闘されていることに、心から敬意を表したいと思います。

さて、「コロナ禍」を巡っては、現時点で終息の見通しがつかない状況ですが、先進諸国ではワクチン接種も始まっており、感染予防にむけた具体的な対策が進み始めるなど明るい兆しも生まれています。その一方で、「コロナショック」で落ち込んだ経済をどう再建していくのかという大きな問題の解決が急がれています。とりわけ、国民が求めているものは、事業の休止・縮小によって失われた雇用や賃金を早急に回復する政策の実行だと思っています。

菅首相は政策理念として「自助・共助・公助」を掲げていますが、「コロナ禍」の状況では、「自助」では限界があり、倒産や事業の休止が相次ぎ、解雇や賃下げが続いています。結果として、「痛み」の多くは労働者・国民に直接的に押しつけられています。緊急事態宣言時には、特別給付金や雇用調整助成金などの「公助」が行われましたが、十分であったとは言えず、事業の存続や雇用の維持が果たせなかったのではないのでしょうか。

いま、あらためて日本経済の再生にむけて強力な「公助」を行うことを求めることは間違った考えでもなく、労働者・国民の「エゴ」でもないと思います。国民の暮らしや将来に責任を持つのは、国であり、政治家の責務なのですから。もちろん、国民生活に向き合った政治とさせていくには、国民がしっかりと怒りや不満の声を上げ、その声に耳を傾ける政治家を選んでいくことが重要です。幸い、今年は秋までに衆議院選挙が行われる「政治の年」です。労働者・国民の生活改善のたまたかいである「春闘」を通じて、政治が国民生活にどう向き合っているのかを見ていくとともに、来るべき選挙では、自分たちの願い(要求)を受け止めてくれる政治家を選んでいきましょう。

わが国の首相は「雪深い秋田の農家の長男に生まれ…」、「苦労人」との宣伝文句で就任当初は高い支持率を得ていましたが、それはさておき、「世界でいちばん貧しい大統領」というワードを聞いたことはありませんか。10年ほど前には絵本や書籍なども刊行され、直近では、本来なら昨年3月には全国の映画館で上映される予定でしたが、残念ながら緊急事態宣言のもとで映画館が自粛休館となり、ネット配信に切り替わったようで、多くの人々の目に触れることにはなりません。

した。そのいちばん貧しい大統領とは、南米ウルグアイの第40代大統領(2010〜2015年)を務めたホセ・ムヒカ氏であり、収入のほとんどを寄付し、大統領の傍ら農業にいそしむという質素な生活を続けたことや、どんな時でもネクタイをせず、大統領退任の日も小さな旧式のフォルクスワーゲンに乗って式典会場へと向かうといった、飾らない姿勢や生活ぶりから、親しみを込めて「世界でいちばん貧しい大統領」と呼ばれるようになったそうです。

ムヒカ氏を世界的に有名にしたのは、2012年にブラジルで開催された「国連会議」でのスピーチで、『消費至上主義が環境危機を引き起こしている。経済の発展が必ずしも人類の幸福に結びついていない』と憂い、『より良い未来に向けて行動を起こさなければいけない』と、世界中で進行し始めた新自由主義的グローバル経済に警鐘を鳴らしたことです。このスピーチが、瞬く間に世界へと広がり、ノーベル平和賞の候補にもなったそうです。

ムヒカ氏の清貧そのものの生活や思想は、政治家は斯くあるべきというお手本とも言え、大企業優遇政策をとり続け、カネと政治の私物化にまみれている、わが国の政治リーダーたちには見習うべきです。

ところで、私はムヒカ氏本人を間近に見たことがあります。2015年にウルグアイで開催されたUITBB(建築インター・建設関係労働組合の世界組織)第16回総会に出席する機会があり、ホスト国のウルグアイ建設労働組合が主催する大ホールでの歓迎式典で大統領がスピーチされました。彼が登壇する際はホールを埋め尽くしたウルグアイ建設労働者が総立ちで万雷の拍手を送っていたのが非常に印象的で、本当に国民から愛された大統領だと感じました。ムヒカ氏はこの年に大統領を退任した後、上院議員となり、昨年10月に高齢と持病を理由に政界から身を引いています。引退を表明した議場での演説で『人生の成功とは、勝つことではなく、転ぶ度に立ち上がり、また進むことだ』と若手の議員にエールを送ったそうです。

コロナ禍のなかで、「世界でいちばん貧しい大統領」の勇退が人々の話題にならなかったものの、わが国においては、今年が「政治の年」であることを思えば、昨今の政治の状況を憂える国民の一人として、私は彼のような政治家を選んでいきたいし、誰からも愛されるリーダーの誕生を待ち望んでいます。

なかまのみなさん、私たちの声に耳を傾け、国民生活に向き合う政治とさせていくべく、自分の一票で世の中を変えていくことができると確信を持つことが大事です。そして、情勢が厳しくても、労働条件改善、生活改善にむけて、なかまとの「団結の力」で転ぶ度に起き上がり、また進んでいくことはありませぬか。

今年一年、どうぞよろしく願っています。

国土交通労働組合 中央執行委員長 安藤高弘